「十字架の血によって平和を打ち立て」　　2019 年 03 月 08 日

コロサイの信徒への手紙 1 章 18 節～23 節　また、御子はその体である教会の頭です。御子は初めの者、死者の中から最初に生まれた方です。こうして、すべてのことにおいて第一の者となられたのです。神は、御心のままに、満ちあふれるものを余すところなく御子の内に宿らせ、その十字架の血によって平和を打ち立て、地にあるものであれ、天にあるものであれ、万物をただ御子によって、御自分と和解させられました。あなたがたは、以前は神から離れ、悪い行いによって心の中で神に敵対していました。しかし今や、神は御子の肉の体において、その死によってあなたがたと和解し、御自身の前に聖なる者、きずのない者、とがめるところのない者としてくださいました。ただ、揺るぐことなく信仰に踏みとどまり、あなたがたが聞いた福音の希望から離れてはなりません。この福音は、世界中至るところの人々に宣べ伝えられており、わたしパウロは、それに仕える者とされました。

「著者」は、神は私たちを闇の力から救い出すため、御子イエスの十字架の死によって、罪を贖い、赦し、御子イエスの支配下に移してくださったと、神の愛を説いている。罪が生み出す闇の世界から、赦されて生きる光の世界に招き入れられたのである。パウロの贖罪信仰に倣い、キリストにおける救いを実存的な視点から述べている。

ところが次いで、その御子イエスは、見えない神の姿であり、全てのものが造られる前に生まれ、全てのものを御自分のために造り、支えておられる方であると、天と地を支配する宇宙的キリストであると説いている。紀元 60 年頃、既に、このような壮大なキリスト告白が生まれていたのである。ヨハネ福音書のロゴス・キリスト論に匹敵するキリスト告白である。当時の宗教事情において、天地を支配する権能を持つ、終末論的キリストを説くことが、宣教に大きな力となっていたということであろう。

次に「著者」は、「御子はその体である教会の頭です」と、御子イエスは死者の中から最初に生まれ、御子を信じる者に宿り、その群を御自分の体である教会とし、その頭となられたと、別の観点からも告げている。神は、満ち溢れる愛を余すところなく御子イエスの内に宿らせ、十字架の血によって平和を打ち立て、地のあるものであれ、天にあるものであれ、万物を御自分と和解させられた。御子イエスにおいて、全てのものが一つに結び合わされ、平和が実現した。コロサイ書の信仰は、御子イエスによる神と人との平和、和解が核心となっている。パウロはローマ書 5 章 10 節で、「敵であったときでさえ、御子の死によって神と和解させていただいたのであれば、和解させていただいた今は、御子の命によって救われるのはなおさらです」と書いている。御子イエスを知らない時は、神から離れ、悪い行いによって神と敵対する罪の中にあった。しかし、御子イエスの十字架の死によって、罪なき者と認められ、神との和解、インマヌエルが実現した。今や、神と結び合う聖なる者、傷のない者、咎められるところのない者とされている。この赦しの恵みに応え、揺らぐことなく信仰に踏みとどまり、聞いて受け入れた福音の希望から離れてはならない。「著者」は、「この福音は、世界中至るところの人々に宣べ伝えられており、わたしパウロは、それに仕える者とされました」と書いている。パウロはⅡコリント 5 章 18 節で、「神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました」と述べている。「著者」はパウロの後継者であることを自負している。